



ホームページが新しくなりました。QRコードを読み取り御覧ください。スマイル附属情報を様々に発信中です！

令和4年度 附属小学校だより

スマイル²ふぞく



第3号 令和4年6月24日(金) 校長 古野 祐一

嬉しい姿が動き出しています！

最近、パソコン片手に6年生が校長室にやってきます。

- ・「北斗の丘をこんな風にしたいんです！」
- ・「授業で犬や猫の殺処分が長崎は多いと知ったので、何か出来ることがないかと考えています！」

総合的な学習の時間に考えた企画を伝えに来ているのです。「誰か一人ではなく、みんなの幸せのために」という目的を掲げ、学校・地域社会の役に立てること、附属小みんなのスマイルのためにできることを考え、様々なプロジェクトを立ち上げています。自分から何かに取り組み達成したいという情熱が溢れている子どもたちを見ると、ワクワクして自分も負けていられないと力が漲ってきます。「自分の学校は自分たちで創る」子どもが、目の前にいることを嬉しく感じながら話に耳を傾けています。

来週30日(木)3校時は、各プロジェクトチームが行うプレゼン会の1回目です。藤本学部長と川口PTA会長、私が御意見番です。保護者代表としてPTA副会長始め本部役員の皆さんにも声を掛けています。6年生の情熱から始まる学びの進捗を、随時お伝えしていきます。



企画について話し合う6年生。



自作アンケートの集約をする6年生。

附属の研修！

附属小学校は、教員養成・先進的な教育研究・地域貢献に取り組むという設立来の使命があります。その中の地域貢献に焦点を当て、その具体的な取組内容を県下に知っていただくため、パンフレットを作成・配付しました。それが「附属の研修」です。これまで取り組んできた地域貢献は、「出前研修」と「遊学研修」の2種類があります。

出前研修

市町の学校や教育研究部会の御要望を伺って出向き、授業提案や講義・演習等を行います。また、県教育センターが主催する国語・算数・理科・社会・英語の各研修会で講師を務め、授業提案や講義を実施しています。

遊学研修

本校においていただき、希望の学年や教科、学級経営などについて参加観察・協議等をしていただいています。つい先日は離島から2名、この後も西海や時津から各1名の先生が一日研修を行い、高学年や複式の授業づくりを深めていかれるなど、次々に依頼が来ています。

長崎県下の先生方に、授業力や学級経営力を高めるきっかけに本校を活用いただき、我々の使命を追求することが、より質の高い教育を北斗の子にもたらすと考え、日々精進している附属の教職員です。

訪問時の先生たちの様子や声を、橋田教頭が紹介しています。



「附属の研修」パンフ。



高学年で様々な授業を参観している先生。

※裏面に続きます！

笑顔の支え

「附属小学校に来て教師としての喜びを再確認できました。早くクラスの子どもに会いたいです。」

先日、本校での研修を終えられた他校の先生からいただいた言葉です。教師としての学びと教師としてのやりがいを胸に、勤務される学校に戻られました。

北松浦郡、西海市、時津町から4名の先生方が来校され、遊学研修を行います。事前に希望教科、希望学年をお聞きします。例えば、複式授業の基本的な在り方、一人一台のパソコンを使った授業など、様々なニーズに応えます。また、終日配当クラスで過ごすことにより、子どもと教師が共に動く本校の学級経営を見ていただきます。

五島市、長崎市、諫早市、佐世保市の5校に本校職員が出向き出前授業も行います。

地域貢献の中で

まずは、子どもと関係を築くために、全力で遊びます。そして、事前にお聞きした要望に応じた授業と講義をセットで行います。短い時間ですが、別れを惜しんでくれる子どももいるようです。

「ニーズに応えるとはどんなことか。相手が何を求めているのか、それに合わせた提案の難しさを感じました。また、勉強します。」

出前授業を終えて帰ってきた職員の言葉です。翌日から自らに課題を課し、教育実践に励んでいました。

地域貢献という名称ですが、機会をいただくことで、本校職員も大きく成長します。長崎附属小の使命を再認識し、何ができるか、何をすべきか職員一同で考えることで、歩む道を探求しております。 **教頭 橋田 晶拓**

北斗の学び

熱く学びを創る

「失敗は成功のもと」と言われます。最新の脳科学でも、子どもが間違えた時には、脳の働きがより活発になり、高い学習効果が得られることが明らかになっています。

北斗の子の学びでは、子どもが、自分の力で試行錯誤しながら目当ての解決に取り組む自力解決の時間を大切にしています。この時間、既習の内容や経験を基に考えたり、クロームブックを駆使したりしながら学びに向かう子どもの姿が見られます。子ども達が課題解決に至るまでには、様々な「失敗」がありますが、何度も挑戦することで、課題を解決した喜びを味わい、資質・能力を高めています。

この営みは、北斗の教師も同じです。これから夏期休業に入るまで、本年度の教科等研究における、目指す子どもや学習の姿を構想し、授業を通して具現化していきます。理論上では、上手くいきそうでも、実際に授業をしてみると「失敗」することもしばしばです。

暑い日々、北斗の子と教師は、試行錯誤しながら熱く学びを創ります。 **主幹教諭 吉田 公悦**

潜入！附属小リアルスコープ

危険生物バスターズ

職員室には、常に3本ほどのスプレー缶が置いてあります。何のスプレー缶かというと…。

「先生、大変です！出ました！ハチ、ハチ！！」「今回はデカかった！これくらいのが、5匹くらい！」と、手で10cmほどの大きさを表す子どもたち。もし本当なら、世界に類を見ないほどの新種巨大バチです。不意にハチを見かけた子どもたちにとっては、驚くあまり、きっとそれくらいに見えたのでしょう。助けを求めてきた子どもたちとともに、現場へ急行します。手には「ハチ・アブ バズーカジェット」なるスプレー。

そう、「3本ほどのスプレー」とは、このハチ撃退スプレーなのです。

「先生、ここです！」しばらく見ていると、かわいいミツバチが数匹…ということもありますが、実際に大きなスズメバチが飛び交うこの季節、いつでも緊急出動できるように備え、子どもたちの安全を第一に守ってまいります。

教務主任 才木 崇史